

編集委員長の退任にあたって

日本公衆衛生雑誌

編集委員長

西 信 雄

2015年1月から2期6年にわたって務めてまいりました編集委員長を、本号が発行される2020年12月をもって退任いたします。前編集委員長の田宮菜奈子先生が2期目の任期に入られる前に理事に就任されたため思いがけず編集委員長に指名いただきましたが、編集委員会および査読委員の先生方、会員の皆様、事務局の方々に多大なご支援をいただき無事に退任を迎えることができました。ここに厚くお礼申し上げます。前々編集委員長の甲斐一郎先生（第59巻・第4号）にならって、誌上で退任のご挨拶を申し上げます。

以下に6年間の主な取り組みを紹介いたします。

1. 審査期間の短縮

2015年1月の編集委員会で「論文中の字句や形式的な点については過度に修正を求めない」ことを申し合わせ、教育的査読ではなく支援的査読を行うこととしました。また2015年11月に投稿規定を改定し、投稿原稿の種類の短報と研究ノートを廃止しました。これとともに編集委員会では著者が希望した原稿の種類で査読することを確認し、基本的に審査の過程で原稿の種類の変更を求めないこととしました。さらに査読コメントについては全般的なコメントと個別のコメントに分けて記載することとし、著者に改訂いただきたい点を明確にするよう努めています。2020年4月には再度投稿規定を改定し、「返送から6か月以上経過した場合は、投稿取り下げとみなす。」という期間の6か月を3か月に変更しました。これらの取り組みにより投稿受付日から採用日までの日数の平均値（中央値）は、第62巻（2015年）掲載計48本の平均206.6日（195日）から第67巻（2020年）掲載計62本の平均184.9日（171日）まで減少しました。

2. 投稿・掲載論文数の増加

上記のように投稿原稿の種類の短報と研究ノートを廃止したことで、科学的な新規性のある論文（手法、対象、結果、解釈のいずれかで既出論文にはない新しさを持つと客観的に判断できる論文）はすべて原著として投稿いただけるようになりました。また2015年発行の第62巻に掲載された論文から3論文を選定して、2016年の学会総会で優秀論文賞の表彰を行いました。この優秀論文賞の表彰は毎年継続しています。さらに同じく2016年の学会総会から、編集委員会のメンバーが演題発表をもとに発表演題推薦カードを発表者にお渡しするようにして、投稿までのフォローをしています。最近では理事の先生方を中心にモニタリング・レポート委員会からの報告も投稿いただいております。投稿論文数全体が2018年の96本から2020年（11月5日現在）の121本まで増加しました。また掲載論文数は上記のように第62巻（2015年）の48本から第67巻（2020年）の62本まで増加しました。結果として採用後の掲載待ち論文数が増加しているため、すでに本誌論文のPDFファイルを公開しているJ-STAGEにおいて、著者校正後の論文を早期公開することとしました。第68巻（2021年）1号からは、基本的に早期公開済みの論文

が本誌に掲載されることになります。

3. 英語論文の投稿・掲載

本誌では日本語の論文だけでなく英語の論文も受け付けています。2018年9月には英語論文の投稿規定を改定し、英語論文の投稿では会員資格を筆頭著者または連絡著者のみに求めることとしました。また、オンライン投稿・査読システムにおいて日本語と英語の切り替えができるようにしました。ただ、このような取り組みによっても、英語論文の投稿は1年に数本しかなく、掲載は第64巻（2017年）と第65巻（2018年）に各1本、第67巻（2020年）に3本あったのみで、なかなか投稿数、掲載数の増加が達成できていません。英語雑誌の場合、インパクトファクターが投稿の動機として重要だと思いますが、日本語と英語の混載誌である限り Web of Science への掲載をもとにしたインパクトファクターの取得に至りません。今後、英語論文の掲載本数を増加させるためには、日本語と英語の雑誌を分けるなど根本的な戦略の見直しが必要です。いずれにしても、皆様からの英語論文の積極的な投稿がまずは第一歩になるものと思います。

あらためて、皆様のご協力に感謝申し上げます。次期編集委員長には上原里程編集委員（京都府立医科大学大学院医学研究科地域保健医療疫学/保健・予防医学教室教授）が就任されます。上原新編集委員長のもとで本誌が益々発展することを祈念しまして退任のご挨拶とさせていただきます。